

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第 76 号(2021 年 11 月 10 日)

LET 九州・沖縄支部事務局発行

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1

熊本学園大学 研究棟 302 号

林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表)

E-mail: secretariat@j-LET-ko.org

編集: 大下晴美・竹野茂・事務局

November 2021 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 76

Table of Contents

・【特集1】池浦先生を偲んで	
・池浦貞彦先生のご功績を偲んで(長加奈子)	1 頁
・池浦貞彦先生を偲んで(島谷浩)	2 頁
・池浦貞彦先生を偲んで(中野秀子)	3 頁
・People Magnet(中島亨)	4 頁
・池浦貞彦先生を偲んで(奥田裕司)	5 頁
・(過去記事とともに)池浦先生を偲ぶ	5 頁
LET 九州・沖縄支部の同志に感謝(池浦貞彦先生)	
・【特集2】LET 第60回全国研究大会を終えて	
・LET 第 60 回全国研究大会の報告(植田正暢)	8 頁
・第 60 回全国研究大会ワークショップを受講して(山本佳代)	9 頁
・全国研究大会ワークショップを受講して(細川博文)	10 頁
・2021 年度支部論文賞を受賞して(冬野美晴)	10 頁
・2021 年度外国語教育メディア学会理事会報告(植田正暢)	11 頁
・2021 年度支部総会報告(長加奈子)	13 頁
・事務局からのお知らせ	14 頁
・編集後記	15 頁

池浦 貞彦 先生のご功績を偲んで

LET 九州・沖縄支部 支部長
長 加奈子 (福岡大学)

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部名

誉支部長の池浦貞彦先生の訃報に接したの

は、本支部がホストを務めた、学会初のオンライン全国研究大会が終わって、ホッと一息を付いた頃でした。第一線から身を引かれてからも、常に学会のこと、特に九州・沖縄支部のことを気にかけていらっしゃった先生でしたので、我々がオンライン大会を無事に終えるのを待っていたかのような気さえもしました。

九州・沖縄支部の歴史は、池浦先生と共にあると言っても過言ではありません。外国語教育メディア学会の前身である「語学ラボラトリー学会(LLA)」に九州支部が設立されたのは1970年(昭和45年)でした。学会設立から10年後、関西支部から独立する形で九州支部は誕生し、池浦先生はその設立にご尽力されました。初代支部長 渡辺 脊吉先生(九州大学)、第2代支部長 田所 信成先生(福岡大学)のもと副支部長を務められ、その後、第3代支部長として1993年度から1998年度まで支部の発展にお力を尽くされ

ました。このような学会に対するご貢献に対して、学会設立50周年を記念した学会功労者表彰を受けられています。

各支部の先生方とお話をする際に、よく「九州・沖縄支部は仲が良いね」というお褒めの言葉をいただきます。そこには、池浦先生が育てこられた九州・沖縄支部のスピリットがあるような気がしています。池浦先生は、相手が学生でも若手研究者でも「ニコッ」と太陽のような笑顔向けられ、気さくにお話をされました。そのように接していただき、緊張が解ける思いをしたのは私だけではないと思います。池浦先生の太陽のような笑顔とそのお人柄で培われた九州・沖縄支部のスピリットが支部設立から50年経った今でもしっかり受け継がれていると、折に触れ感じております。

あらためまして、ここに池浦貞彦先生の学会へのご貢献に心より感謝すると共に、先生のご冥福をお祈りいたします。

池浦 貞彦 先生を偲んで

LET 九州・沖縄支部 理事
島谷 浩 (熊本大学)

私は、あるご縁があって、池浦先生に、先生のご自宅で、はじめてお会いいたしました。1984年のことです。大学を卒業し、米国の大学院に留学することになったことを、私の父が近所に住まれている大学の先生に話したところ、留学経験のある自分の友人に会って話を聞いておくとよいと、池浦先生を紹介していただいたのです。まったく畏れ多いことですが、

そのような縁で、先生のお宅に伺いました。先生は、初対面の私に、留学をされていた頃の思い出を、丁寧に、そして身振り手振りを交えながら、面白おかしく話してくださいました。フルブライト奨学生として留学されたエリートの池浦先生と、私費留学の私とはまったくレベルが違うのですが、同じミシガン大学に留学することになっていたもので、親近感を持っていたのだのかもしれない。先生

のお話を伺って、留学に対して不安だらけだった自分の気持ちが思い切り晴れる思いがしたことをよく覚えています。

大学院を修了し帰国した際には、進路についてご心配いただき、ご紹介いただいたのが前任校の非常勤講師の仕事でした。1年後、なんとか専任講師になると、学会への入会と学会発表を勧めていただき、1988年に佐賀で開催された語学ラボラトリー学会(LLA)九州支部第22回研究大会でののはじめての学会発表につながりました。先生からのお勧めがなければ、LLAそしてLETで多くの先生方と出会うこともなく、学会の先生方と共同研究や、学会活動をすることもなかったかもしれません。大学での教育、研究の方

向も、きっと大きく変わっていたと思います。

その後、2010年から2016年まで、LET九州・沖縄支部長を務めさせていただいた時期には、いつも温かい励ましのお言葉をかけていただきました。大学等で学生としてご指導を受けたわけではありませんが、学会を通して、非常に多くのことを学ばせていただき、また大変お世話になりました。元気で明るいお声、人をひきつけてやまない楽しいお話、魅力あふれる先生は、永遠に私の心の中におられます。先生よりいただいたご教示を胸に刻み、ご高恩にこたえていきたいと思っております。

心からご冥福をお祈りいたします。合掌

池浦 貞彦 先生を偲んで

LET九州・沖縄支部 運営委員

中野 秀子（北九州市立大学非常勤講師(元九州女子大学教授)）

池浦貞彦先生が亡くなられる10日前、福岡教育大学ESS同窓会(Zoom開催)でお元気な顔を拝した後、お電話でLET九州・沖縄支部が全国大会を開催する事などをご報告しました。池浦先生は「そうか」と嬉しそうに聞いておられ、今年こそコロナで延期している「池浦先生お誕生日会」でお会いすることを約束していつものように「See you!」とお別れしました。それが最後の「See you!」になるとは思いもしませんでした。

池浦先生は英語研究者としての姿勢と教育者としての温かい心で多くの学生の人生の転機となる影響を与えて来られました。私もその一人です。池浦先生に出会わなかつ

たら今の私はないというのは過言ではありません。

大学紛争で授業がなかった大学1年の春、一般英語の授業再開を友人とお願いに行き、その後すべて英語で授業される先生に感嘆し、顧問をされていたESSに入り、英語を副専攻として学びました。卒業後、化学の仕事に就き、夫の都合で渡米して大学院で英語教育を学んだ事をご報告に伺った夜、「中野さん、大学院受験せんね?」と電話をいただきました。そこから、英語音声学の師として指導を受け、実験音声学を学び、大学英語教育に携わることになるとは想像もしていないことでした。

当時、先生は LLA(Language Laboratory Association)九州支部の支部長をされており、LLA 九州支部は別名 Love Love Association だと言われておられたように、和やかでかつ活発な雰囲気でした。お陰で新参者の私も諸先生方から温かいご指導をいただくことができました。

それから 30 年の年月が経ち、先生とのお別れの時が来てしまいました。先生は太陽のように温かい心で我々教え子を見守ってくださいました。これまでのご恩情に心より感謝申し上げますと共に、謹んでご冥福をお祈りいたします。本当にありがとうございました。

合掌

People Magnet

LET 九州・沖縄支部 運営委員
中島 亨（福岡教育大学）

大学の学部に入學してまさに第 1 日目、池浦先生は対面式場で、僕のすぐ右側に座っておられました。先生は第一声で僕に話しかけてくれました。高校は楽しかったか、大学では何をしたいか、一人暮らしを始めてどうか、など。大学の先生たるもの、ものすごく偉いはずなのに、こんなにも気軽に声をかけてくれるとはゆめゆめ思っておらず、大学での勉強に大いなる安心と希望を持ったものでした。僕は友達や先輩と仲良くなる前に、さっさと池浦先生の研究室を訪れていたのです。こうして僕は一瞬にして先生の虜となてしまい、それ以来昼休みになると先生の陽の当たる研究室に、奥田君（現福岡大）と連れ立って押しかけ、お弁当と一緒に食べていました。

大学 3 年になると、先生が行かれる講演会や学会に、誘われてはノコノコとついて行くようになり、その度に聴衆を完全に魅了する様子を目にしたものです。アカデミア畑の方々には当然のこと、恥じらい多き中学生は魔法がかかったように英語を喋り出し、日本にきた

ばかりの ALT 達は誰もが膝を叩いて大笑いし、一般市民は首がもげるほど頷いて話を聞いていました。キャンベラ大学に留学して 2 ヶ月目、先生はこの大学に表敬訪問に来られました。その時、僕は隣の部屋のおしゃべり John とようやく 2 対 8 の分量で会話に入れるようになっていましたが、池浦先生はその John と 9 対 1 の量で英語で対話をされました。先生の絶大なる英語力に唖然としたのは当然、先生が帰国された後、John はしばらくの間「お前の先生は元気か、いい先生で羨ましい、また話がしたい、よろしく言えよ。絶対に」と結構しつこかったのです。

先生から聞く、数え切れないほどの信じられないような逸話（例えば飛行機で偶然隣に座った人が、その時先生が手元で読んでいた本の著者で、それを和訳して日本で出版するという段取りですぐに取りつけたという話）は、実は偶然なのではなく、人を引き寄せる磁石のようにみんなを魅了してやまないお人柄から来た必然だったのかもしれませんが。

池浦 貞彦 先生を偲んで

LET 九州・沖縄支部 評議員

奥田 裕司（福岡大学）

我が生涯の恩師である池浦貞彦先生の追悼文を執筆頂きたいとのご依頼を受けました時、先生が他界された実感を未だに持つことができていない私は締め切りギリギリまで書き始めることができずにおりましたが、池浦先生、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、先生との思い出を書かせて頂き追悼とさせていただきます。

池浦貞彦先生との出会いは、私が福岡教育大学の学部生の時からでした。どんな時も元気で明るく学生に接してくれて、キャンパスのどこにいても学生に囲まれ、まさに太陽のような存在でした。私はその温かさに導かれるままゼミに入り、そして池浦先生が初めてご担当される大学院の一期生として長きに渡りご指導をして頂きました。

大学院在学中から、LET(当時は語学ラトリー学会)でお世話になることになり、33歳で支部事務局長を経験させて頂き、まだ何も分かっていなかった自分がLETの素晴らしい先生方と出会い、本当にいろいろな経験を積むことができたのも池浦先生のお陰で

あると感謝致しております。

池浦先生は、常に人との関わりを大切にされてられました。一度でもお会いした方はずっと覚えておられて、また会うと元気にお声をおかけになり、その方もいつの間にか池浦ファミリーの輪の中に入られて、どんどん温かい繋がりが広がって行くという、人と人とを繋ぐ名人だったなと思います。学生さんとの集まりには、どんなに体調が悪くお忙しそうでも必ず笑顔で参加されてられました。池浦先生には公私に渡って本当に様々なご指導をして頂きましたが、ある時私の手を握ってくれて、その温もりとともに今でも私の心にずっとあり続ける言葉があります。「奥田君、学問であんたに残した言葉はそんなにはないけど、学生さんから誘われた集まりに断りを入れるようなことだけは絶対にあつたらいかんよ。」先生、私は今でも守り続けております。

池浦貞彦先生、私達をいつまでも明るく照らして下さり、たくさんの温もりを本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(過去記事とともに)池浦先生を偲ぶ

支部だより 54 号(2010 年 11 月発行)に池浦先生の寄稿された記事が残っておりました。池浦先生を偲ぶ意味でも再度掲載させていただくことにしました。



(支部功労賞を受賞された木下先生と池浦先生)

LET 九州・沖縄支部の同志に感謝

池浦 貞彦

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部が結成されて 40 年！感無量です。思えば 60 年ほど前に中学校の英語教諭として就職し、より良い教材や指導の方法を模索しながら一人で悩んでいる時、明るい希望を与えて頂いたのが(現)とそこに集まれる同志だったのです。この度はその学会から功労賞を頂き嬉しいというよりは恐縮しながら「感謝状は私が学会と同志の皆さんにお贈りすべきものです」と心の中で叫んでいます。

戦後 10 年余りの間に日本は産業や経済界を中心に国際化が急激に進み、その流れが英語教育界にも大きな影響を及ぼし読む、書くだけでなく、聴く、話す能力が重視されるようになりました。然し英語の母語話者を教師として雇う経済力は無く、日本人英語教師の再教育や録音機に頼るしか方法はありません。蓄音機に勝るテープレコーダーが 1950 年代に開発されて英語教育の方法は大きく改善されました。

教育機器の活用に強い関心を持ち始めていた 1958 年に米国留学の機会を得て、ミシガン大学では基礎になる英語音声学や音素論及び構造言語学などを学ぶと共に既に完備されていた教室を用いて英語音声の効果的に指導するための理論や方法を学びました。更に同じような興味をお持ちの金田正也先生と知り合う機会を得て帰国後も交流を続け、週末にはよく神戸へ出向いて同志数名の研修会に参加しました。このような動きが関東地方にもあって遂に 1961 年に発足したのです。

その頃九州では設備を持っている学校は少なく、私が勤務していた学校では火災で失った校舎を新築する動きの中で教育内容の改善充実にも配慮がなされ簡易ながらも教室を設置する提案が採用されました。要領よく使うだけではなく常に研究課題を持って教材を準備したり指導の方法を工夫したりして、その結果を発表しては同志の意見を頂いて更なる改善を図るように努力しました。1964 年同志社女子

大学で開催された全国大会で研究発表をした時、泉マス子先生と板倉武子先生にお会いして早速 3人で研究会を持ち始めました。やがて私が福岡教育大学へ転勤したので週 1 日とれる研修日を同じ曜日にして毎週集まって研究活動に熱中しました。その成果は学会活動の中で発表したり論文に纏めたりする一方、英語教材として 2 冊、英語音声学専門書として 1 冊を出版することができました。更に私が九州・沖縄支部長に選ばれた際はお 2 人が副支部長として有難い支援をしてくださり、親交は今でも続いて「吾が人生の宝:3I 会*」となっています。

この 3I 会がきっかけとなって関西や関東に出向かなくても九州の身近な場所で研修会を持つ動きが強くなり、遂に 1970 年九州・沖縄支部の誕生に至りました。私は音声学にも興味を持っていたので口腔関係の実験設備が整っている福岡歯科大学の大薮勉先生と教室が設置されている近畿大学九州工学部の吉永光明先生、それに九州工業大学の米国人講師の先生と一緒に実験音声学の立場から主に日・英の音声の比較研究を深めました。でも再

三研究発表を行いました、少し専門的過ぎる内容の場合は音声学世界会議や世界応用言語学会で発表し夫々の論文集に採用されました。

中学校や高等学校の先生達との研究活動も盛んに行い、1969 年福岡中央高等学校で視聴覚教育合同全国大会を開催した際は服部辰夫先生、井上史郎先生、川尻徳先生達の御活躍が有難い原動力になりました。更に北九州市を中心に教室を設置する中学校が増えたことや高等学校入学試験に聴解力試験を導入する際の推進力になったことは間違いありません。

コンピュータをはじめ各種機器が次々に開発され外国語教育の分野にも急激な変革が起こり学会の名称も変りましたが、この流れの正しい先導役を務めながら益々の発展を遂げますようにお祈りして受賞のお礼に代えさせていただきます。

【編集者注】

3I 会(さんあいかい) 泉マス子先生、板倉武子先生、池浦貞彦先生の3名のグループの名称。頭文字「I」からの命名と思われる。



(学会創設 50 周年記念顕彰を受けられた池浦先生)

LET 第 60 回全国研究大会の報告

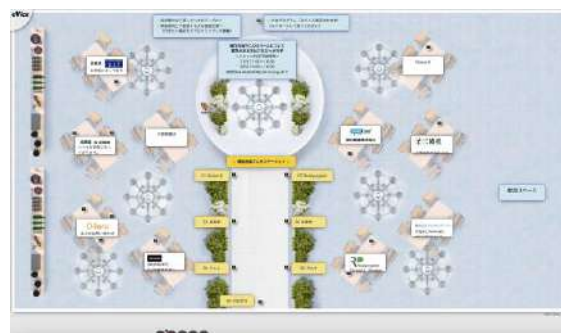
LET 第 60 回全国研究大会実行委員長
植田 正暢（北九州市立大学）

LET 第 60 回全国研究大会では、事前に録画されたビデオを 8 月 13 日から 29 日の期間に配信し、Zoom を用いたライブ配信を 20 日から 22 日の間に実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で延期されたため 2 年越しの開催で、しかもオンラインという環境でしたが、全体で約 400 名の登録があり、盛会のうちに大会を終えることができました。多くの方にご参加いただけたことに感謝申し上げます。また、竹田契一先生、飯島睦美先生をはじめ、全体シンポジウム、ワークショップで講師を引き受けてくださった先生方には、オンラインであったにも関わらず、素晴らしいお話しをありがとうございました。また、大会実行委員としてともに大会運営に関わってくださった先生方には過度な負担を強いる業務をお願いすることがありましたが、快く引き受けていただき、時には先回りして作業を進めていただきました。改めてこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

学会は、第一義的には、最新の研究成果や教育活動を他者と共有する場だと言われます。コロナ禍で物理的に集まることはできませんでしたが、インターネットを利用したサービスを利用することにより、空間の制約を超えて、またオンデマンドビデオや非同期型のコミュニケーションツールを利用すれば時間の制約も超えて、知識と経験の共有が可能となりました。それで十分と思う方もいらっしゃると思いますが、私個人は第 11 代会長 竹内理先生が仰っていたように「学会は楽会」であるべきだと考えています。会場で偶然、話しかけた、あるいは話しかけられた人とのつながりができたり、あるいは普段は接する機会がない人と交流する機会ができたりするのもまた「楽会」だと思います。それをいかにサイバー空間で行う学会で再現するのかという部分に苦心し、oVice というプラットフォームを利用した会員交流ス

ペースがその試みでした。

会員交流スペースで利用した oVice とは、鳥瞰図的に描かれた部屋の中で自分のアバターを動かし、他人のアバターに近づくことでコミュニケーションをとれるように設計されたサイバー空間で、物理空間で距離が近づくことでコミュニケーションがとれるようになるのと類似した体験が得られるようになっています。大会ホームページを作成することも、Zoom 会議を円滑に運営することも大会を成功に導くためには重要なことでしたが、私の中では oVice をいかに活用するかが最大の関心事でした。馴染みのないサービスを利用することは多くの人にとって勇気のいることであり、最初の 2 日間は参加者のみなさんになかなか「足を運んでもらう」ことができませんでしたが、最終日に多くの人に利用いただけたことに一安心しました。



(oVice の様子)

会員交流スペースでは擬似的に設置した協賛会員企業のブース以外に、試験的にポスターを見るような感覚で賛助会員プレゼンテーションのビデオを見られるようにしましたが、そこにオンライン学会の新たな可能性があるのではないかと感じました。ポスター発表は発表者と聴衆が比較的に近い距離で時間をかけてやりとりができるメリットがありますが、oVice を用いることで類似した状況を再現することが可能になるだけではなく、紙という静的な媒体から

解き放たれ、動的な媒体を駆使した発表が可能となることが分かりました。紙媒体の場合には基本的には文字や図表を用いて伝えることになりますが、動的な媒体を利用すれば文字や図表だけでは伝えられないことも伝えることが可能となりますし、A0 というサイズの制約からも逃れられます。(もっとも、設備が整った会場で開催される学会では、ポスター発表は紙ではなく、大型液晶モニターを使って掲示することが可能になっていますので、動的な媒体を用いた

ポスター発表は対面式の発表でも実現できますが、予算規模の大きな学会でないと難しいのが現状です。)

新型コロナウイルス感染症のまん延によって大会が延期され、オンライン開催となった当初はネガティブな側面しか目が行きませんでした。オンライン大会を企画、運営する中で、これまでとは異なる形態の学会の可能性を感じた大会でした。



(大会終了後の実行委員会の様子)

第 60 回全国研究大会ワークショップを受講して

LET 九州・沖縄支部 評議員
山本 佳代 (宮崎大学)

LET 全国研究大会にて、「R を使った統計検定超入門」(8 月 20 日)を受講させて頂きました。これまで、教育データ分析の度に、R の使い方がなかなか身につかずにおりました。全国大会パンフレットで「超入門レベル」と書かれた講座案内を目にし、直ぐ

に受講を決意いたしました。ZOOM での開催であったため、講師の内田論先生(九州大学)は、受講者の進捗状況をご覧になることができず、また表情も分からず、進行に苦慮されたことと思いますが、受講側にとりましては、PC 画面上に先生が提示される

スライド、そして自分の R 画面を並べて作業を行える環境でした。作業のための適切な間を与えて下さり、そして R で計測するまでの理論的な流れを丁寧

に解説してくださったお陰で、これまでの疑問を解決することができました。是非、シリーズ化して頂きたいと願っております。

全国研究大会ワークショップを受講して

LET 九州・沖縄支部 会員
細川 博文 (福岡女学院大学)

2021 年 8 月 20 日にオンラインで実施されたワークショップ、「3 ラウンド S&W」(坂本彰男先生:福岡女学院中学高等学校)と「日本の中高英語授業に欠けている『英語を体得する』授業」(田中十督先生:西南学院中学高等学校)に参加しました。坂本先生は多読・多聴に加えて S・W を如何に育成するかを長らく研究されておられます。田中先生の本発表では英語の基礎力育成を徹底させる独自の指導法を紹介し、これまでの壁を壊そうと奮闘されていました。私見ですが、英語力育成は結局は思考力育

成につきると考えます。単純化すれば、横(知識基盤の形成)と縦(掘り下げ・腹落ち)の思考力育成です。本来こうした指導は全教科で共有されていなければなりません。つまり、「英語力育成」=「英語教科」ではないのです。この発想に立てば、英語で表現する能力は今以上に育成できるはずです。中高の現場教師の努力を無駄にしないために、教育は常に俯瞰的に設計する必要がある、その担い手としての学会の責任は大きいと痛感しました。

2021 年度 支部論文賞を受賞して

2021 年度 LET 九州・沖縄支部論文賞 筆頭著者
冬野 美晴 (九州大学)

この度は外国語教育メディア学会九州・沖縄支部論文賞にご選出いただき、ありがとうございました。支部学術賞のはじまりの年に受賞の栄誉を賜り、大変光栄で嬉しい気持ちです。本論文に貴重なご助言を賜りました匿名査読委員の皆様、編集委員の皆様、選考に携わられた皆様、また共同研究で日頃よりお世話になっている先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

本研究は、2014 年から実施して参りました、英語パブリックスピーキング教育のためのマルチモダ

ルのバーチャル・リアリティ(VR)技術を用いて、オリジナルの体感型教材を開発したものです。現在も、機能拡充のための開発と効果検証を継続して行っています。これまでの検証実験では、使用した学習者の英語習熟度やパブリックスピーキングの主観的熟達度に関わらず、本教材への高い評価が示されています。

VR 技術は、AR 技術や MR 技術などの関連する xR 技術とともに、今後ますます教育応用が進んでいくと期待されます。本教材の教育現場への還元をはじめとして、英語教育を促進するテクノロジーの可

能性を今後も模索していく所存です。今回の受賞を

励みとし、より一層精進して参りたいと思います。

2021 年度外国語教育メディア学会理事会報告

LET 九州・沖縄支部 副支部長

植田 正暢（北九州市立大学）

2021 年 8 月 30 日にオンラインにて理事会が開催されました。会は会長 森田彰先生の挨拶から始まり、その後、議長として次年度全国大会担当支部の関西支部支部長 菅井康祐が選出され、議事が進行しました。以下、審議事項と報告事項について重要なものを取りあげてご報告いたします。

<審議事項>

1) 会長選挙

理事会がオンラインで開催されたため事前にメール稟議で承認された方法（理事会当日に出席理事宛に投票コードと Google フォームの URL を送付）にて投票が行われた。1 回目の投票結果で過半数を超えた森田彰理事（現会長）が再選された。なお、投票結果の詳細は以下の通りである。

森田彰理事	20 票
高橋美由紀理事	1 票
野村和宏理事	1 票
見上晃理事	1 票

（有効投票数 23 票）

2) 2020 年度本部事業報告および決算報告 ならびに 2021 年度事業計画および予算案

見上事務局長より資料に基づき説明がなされ、審議の結果、原案どおり承認された。

3) 2022 年度第 61 回全国研究大会の開催について

関西支部 菅井支部長より、資料に基づき第 61 回全国研究大会の会場、日程、実行委員会構成、対面開催ができない場合の対応等が説明され、審議の結果、承認された。また、今後実行委員会では、

対面で開催できる場合もオンラインを組み込んだハイブリッド形式について検討するとの報告があった。なお、日程等については、正式に確定後、報告することとなった。

4) 全国研究大会における提携学会会員と講演者等の取り扱いについて

千葉事務局次長より、提携学会会員と講演者等、賛助会員の参加費徴収の有無と登録方法について提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。概略は以下のとおりである。

- ・提携学会会員：申し込みフォームに所属学会の会員番号を記入してもらい、LET 会員と同額の参加費を徴収する。
 - ・非会員の講演者：参加費は徴収せず、自ら非会員として参加登録をしてもらう。
 - ・会員の講演者：参加費を徴収し、自ら参加登録をしてもらう。
 - ・ワークショップ講師：担当するワークショップ以外のプログラムに参加する場合は参加費を徴収する。登録は自らしてもらう。
 - ・賛助会員：参加費は徴収せず、自ら登録してもらう。
- なお、今後の課題として、以下のような検討事項が挙げられた。
- ・団体会員の取り扱いを検討する必要がある。
 - ・賛助会員が展示に申し込んでいないのに営業行為をしないように工夫する必要がある。

5) 2021 年度 各支部の本部納入金額の算出について

千葉事務局次長より本年度の各支部から本部へ

の納入金額が提示され、審議の結果、承認された。
なお、年末までに請求書を各支部事務局に向けて
送付することが連絡された。

6) 名誉会長の推薦について

中部支部の高橋支部長から前会長の柳善和氏を
名誉会長に推薦する提案があり、本学会への貢献
等の説明がなされた。審議の結果、柳善和氏を名
誉会長に推薦することが承認された。

7) 会則および理事会内規の改定について

千葉事務局次長より会則および理事会内規改定
の説明がなされた。会則改定は、これまで記載され
ていなかった名誉会長の所属と権利を明確にした
ものであり、理事会内規改定は理事会の議決区分
に「名誉会長の推薦」を加えたものである。審議の
結果、原案通り承認された。

なお、会則改定により、名誉会長は本部に所属す
ることになるが、データベース上ではこれまで通り
それまでの所属支部に登録することが確認された。
また、森田会長より、「今後、より若い世代が会長と
なり、会長を退いた後も個人会員として残るケース
も考えられる。学会の活性化という観点からも、名
誉会長のあり方を再度検討することも考えたい」と
の考えが述べられた。

< 報告事項 >

1) 本部報告

- ・見上事務局長より 2021 年度本部役員、正会員
数、賛助会員について報告がなされた。また、
2022 年度支部選出理事の各支部割当て人数
が説明され、関東支部 10 名、中部支部 4 名、関
西支部 10 名、九州・沖縄支部 4 名、本部 2 名の
計 30 名となる。
- ・千葉事務局次長より、学会機関誌 58 号が J-
STAGE 上で公開されたことが報告された。
- ・見上事務局長より、2020 年度会長・副会長会議
で決定された通り、理事会内規の誤植等を修正し
たことが報告された。

2) 各種委員会報告

・国際交流委員会

小野委員長より、Quizlet の担当者の部署移動が
あり一部参加者に不便をかけたが、ジェトロと協力
して対応していることが報告された。

・学会賞選考委員会

湯舟委員長より、メール稟議で承認された 2021 年
度の学会賞についての報告があった。「日本の高
等学校での活用を想定したペア型スピーキングテ
ストの開発」(山本大貴、近藤暁子、鳴海智之、多
田ウェンディ、吉田達弘)が論文賞として選考され
たことが報告された。

・機関誌編集委員会

中島委員長より提案された編集委員会規程と投稿
規程について審議に切り替えて、検討された。そ
の結果、学会機関誌編集委員会規程の改定およ
び学会機関誌投稿規程に第 4 条に 3 項と 4 項を
追加する改定について原案どおり承認された。

なお、機関誌編集委員会での議論に関連して、森
田会長より、編集委員の各支部割当て数とブライ
ンド化作業のための人員補充については本部とし
ても考えていきたいとの発言があった。

3) 各支部報告

各支部の 2020 年度支部事業報告および決算報
告、2021 年度支部事業計画及び予算の説明と報
告がなされた。

4) 2022 年度以降の全国大会開催予定について

見上事務局長より 2022 年度以降の全国研究大会
担当支部について報告がなされた。九州・沖縄支
部は 2027 年度第 66 回を担当する予定である。

3) その他

- i. 植田全国研究大会実行委員長より、第 60 回大
会についての報告がなされた。
- ・登録者は全体で 382 名、そのうち LET 会員 227
名であった。
- ・初めてのオンライン開催で、様々な問題点が浮か
び上がったので、次期全国研究大会担当の関西
支部に後ほど情報を送りたいと考えている。
- ・今後の課題として、オンデマンドで公開を始める

前に類似の動画を別のサイトで公開されたという事例があった。

- ii. 学会賞に関して、今年度は 1 件の受賞にとどまっており、理事としてもより活発に推薦する必要があるのではないかとの意見が出された。
- iii. 関西外国語大学に設置されている LET の歴史資料室について、今後の取り扱いを議論する必要があるのではないかとの意見が出された。これにつ

いて、まず関西支部で議論をし、支部提案事項として理事会に提案することとなった。

- iv. 森田会長より、今後学会の地位向上を目的に、機関誌の Scopus 登録に向けての本格的な作業や全国研究大会の国際大会化などを推進したいと考えており、更なる協力をいただきたいとの依頼がなされた。

以上。

2021 年度支部総会報告

LET 九州・沖縄支部 支部長
長 加奈子（福岡大学）

新型コロナウイルスの影響は留まるところを知らず、2021 年度の支部総会も、2020 年度に引き続き遠隔での実施といたしました。今回は全国研究大会の実施を控えているということから、書面総会（郵送による投票）となりました。ご理解、ご協力いただきました会員の皆様には、あらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。以下の通り、2021 年度の支部総会についてご報告させていただきます。なお資料は既にメールにて会員の皆様に送信済みでございますので、省略させていただきます。

資料送信（メール）：2021 年 7 月 8 日（木）

投票用紙郵送：2021 年 7 月 8 日（木）

投票受付期間：

2021 年 7 月 8 日（木）～7 月 14 日（水）

I. 議事

第 1 号議案：2020 年度事業報告・決算・監査報告について

2020 年度支部事業として、以下のように報告され、賛成多数で承認されました。

- 1) 2020 年度事業報告（総会資料 pp. 1-2）

2020 年度支部決算報告書が報告され、また併

せて監査の報告がされ、賛成多数で承認されました。

- 2) 2020 年度決算報告（総会資料 p. 3）

- 3) 2020 年度監査報告（総会資料 p. 4）

第 2 号議案：2021 年度事業計画・予算について

2021 年度支部事業計画案が以下のように提案され、賛成多数で承認されました。

- 1) 2021 年度事業計画（総会資料 pp. 5-6）

2020 年度支部予算案が提案され、賛成多数で承認されました。

- 2) 2021 年度予算（総会資料 p. 8）

II. 報告

1. 外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部 学術賞について（総会資料 p. 8）

2020 年 2 月末日までに推薦のあったものに対し、外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部学術賞選考委員会において審査を行い、その選考結果に対して、2021 年 6 月 26 日に開催した支部運営委員会において審議を行い、以下の受賞が決定したことが報告されました。

外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部 奨励賞 該当なし

外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部
論文賞

受賞論文: 360 度没入体感型バーチャルリアリ
ティ技術を用いた英語パブリックスピーキング練習
用システムの開発

執筆者: 冬野美晴

(九州大学・LET 九州・沖縄支部会員)

山下友子

(芝浦工業大学・LET 関東支部会員)

2. 2022 年度支部研究大会開催校について(総会
資料 p. 9)

新型コロナの収束が現段階で見通せず、次年度
の開催形態が見通せません。また仮に対面を前提
とした場合においても、開催予定校の承諾(内諾)
を得ることが現段階では極めて困難な状況です。
以上のことから、2022 年度の支部研究大会の開
催形態および対面の際の開催校については、
2021 年度 9 月開催予定の支部運営委員会で協
議を行い、その後、支部会員へ報告することになっ
たことが報告されました。

以上。

事務局からのお知らせ

【新会員(2021 年 10 月 20 日現在)】

<正会員>

吉村 理一(九州大学)

尾崎 ちひろ(佐世保工業高等専門学校)

知足美加子(九州大学)

【2021 年度ワークショップ】

今年度は 2022 年 3 月に開催予定です。

詳細が決定いたしましたら、メーリングリストや支部
HP にてお知らせいたします。

【2022 年度 LET 全国研究大会】

次年度(2022 年度)の LET 全国研究大会は関西
支部担当で、以下の通り予定されています。

日時:2022 年 8 月

場所:立命館大学大阪いばらきキャンパス

対面形式での開催を目指しておりますが、新型コロ
ナ感染症の拡大状況などに応じ、開催形態等変更
の予定がございます。

詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。

【会費納入のお願い】

2021 年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛
に送付されております。まだお振り込みいただい
ていない会員の方は、お早めにお振り込みいただき
ますようお願いいたします(個人会員・団体会員は
6,000 円、学生会員は 3,000 円)。未納の状態が続
く場合には支部からの発送物を停止させていただ
く場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご
協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更
が生じた場合には、学会本部の HP より変更して
いただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江 2 丁目 5-1 研究棟 302 号

熊本学園大学 林幸代研究室内

編集後記

今号で特集させていただきましたのは8月にご逝去されました池浦先生に関する記事です。池浦先生といえば、LETの前身でありますLLAの研究大会などでの挨拶では必ずのように“Love Love Association -LLA”という言葉の口になされていました。愛のある学会に、九州・沖縄支部に私自身参加させていただき、全国研究大会で他支部の先生方とお話しさせていただく中で、九州・沖縄支部の仲の良さを指摘され、自分でも実感したことでした。その原点は池浦先生のお人柄に端を発するのではないかと思います。「豪快な声と優しい笑顔」の人で、少しハスキーで鼻にかかったお声で熱心にお話しされる姿を今でも思い出します。先生と話していると少しばかり元気がなくても段々と元気を取り戻し

楽しくなってくる経験をしたことがありました。長先生が「太陽のような人でした」と言及されましたが、まさにその通りの方でした。池浦先生には感謝とともに心からお悔やみを申し上げます。

今号は池浦先生追悼特集を始め、第60回全国研究大会などたくさんの記事を用意しました。支部だより史上で最大の投稿者数になったのではないかと思います。多くの方に執筆していただき大変感謝しております。記事の執筆を突然依頼する事があるとは思いますが、その際には何卒よろしくお願いいたします。

編集作業の大半は大下先生の尽力によるものです。最後になりましたが、お礼をお申し上げます。いつもありがとうございます。(茂)